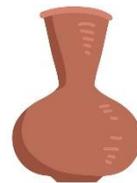


おもしろ社会⑥（歴史編）



弥生時代(1) あてはまるものに「○」をつけましょう。

1 「弥生時代」という名前がつけられたのは、どうしてでしょう？

	(ア) 弥生町という場所で縄文時代とはちがった土器が見つかったから。
	(イ) 弥生という名前の女性が、この時代の遺跡を発見したから。
	(ウ) 旧暦の3月のことを「弥生」といい、その時期に稲作(米作り)の準備を始めるから。

2 弥生時代の人々は、どのようにくらしていたのでしょうか？

	(ア) 動物とらえたり、木の実などをとったりして、主に自然のめぐみを得てくらしていた。
	(イ) 広い地域に米づくりが広がり、集落をつくって農作業をしてくらしていた。
	(ウ) 天皇を中心とした国家ができ、人々はいろいろな職業に就いてくらしていた。

3 弥生時代の人々は、どのような道具を使っていたのでしょうか？

	(ア) 銅や鉄などの金属をまだ知らなかったので、石や骨、木でできた道具を使っていた。
	(イ) 石や骨、木のほか、貴重ではあったが銅や鉄の道具も使い始めた。
	(ウ) 銅や鉄など金属製の道具が、広く使われていた。

4 弥生時代の様子として、まちがっているのはどれでしょう？

	(ア) 水田や水、収穫した米などを奪い合って、争いが起こるようになった。
	(イ) 王が支配する「クニ」が、日本各地にいくつも誕生した。
	(ウ) 大王(のおおきみ)を中心とした国家が誕生した。

答えと解説



問題	正解	解説
1	(ア)	<p>1884(明治17)年3月、東京都文京区の弥生町の遺跡から、縄文土器とはちがった赤茶色の壺形(つぼがた)の土器が発掘されました。初めは、ちょっと変わった縄文土器と思われていましたが、次第に縄文土器とのちがいが注目され、研究者たちが、発見された地名にちなんで「弥生土器」と名付けました。</p> <p>「弥生土器」は、縄文土器よりも高い温度で焼いて作られたため、うすい割にかたいのが特徴です。また、壺や高坏(たかつき)など、縄文土器にはなかった形の土器も作られました。中には、朱色の絵の具がぬられた土器も見られています。</p>
2	(イ)	<p>およそ1万年も続いた縄文時代が終わると、弥生時代が始まり、それまでのくらしぶりが大きく変わりました。弥生時代で最も特徴的な変化は大陸から稲作(米作り)が伝わったことです。稲作は弥生時代の初期、九州北部に大陸からの渡来人によって伝えられました。その後、徐々に東へと広がっていきました。</p> <p>稲作が広まった大きな理由は食料の保存がきくという点で、縄文時代に比べ食生活が安定しました。これまで移動して生活していた人々は、定住するようになりました。稲を育てる土地、水路の確保、耕す労働力、保存する場所等様々な問題点も浮上しました。そのため、弥生時代では人々の生活ぶりが大きく変わりました。</p> <p>但し、縄文時代と同じように狩りや漁労(ぎょうらう)は行っており、とった動物や魚は、弥生時代の人々のタンパク源となっていました。</p>
3	(イ)	<p>弥生時代になると、青銅器や鉄器などの金属器が大陸(中国や朝鮮)から伝えられました。金属器は、まず九州の北部にもたらされ、武器や工具として使用されますが、やがて青銅器は鏡や銅鐸(どうたく)などお祭りの道具として、青銅器よりも強い鉄器は農具や武器などの実用品として、使われるようになっていきました。その後、中国地方や近畿地方、関東地方など東日本にも広がりました。</p> <p>但し、この時代はまだ金属器は貴重であったため、縄文時代から使っていた石器や骨格器も使われていました。稲穂をかり取る「石包丁」は、弥生時代に使われた代表的な石器のひとつです。</p>
4	(ウ)	<p>稲作は共同作業が多いため、人々は水田に適した低地に集まってくらすようになったのです。すると「ムラ」と呼ばれる集落が誕生し、弥生時代中ごろには、ムラをまとめる指導者が登場するようになります。</p> <p>稲作のはじまりによって生活が安定しましたが、反面、食糧(あまった米など)や水田をめぐるムラどうしの争いが起こりました。そのため、周りを水濠(すいごう)や柵(さく)で囲んで敵の攻撃を防ぐ集落(環濠集落:かんごうしゅうらく)がつくられました。</p> <p>争いに勝ち残ったムラでは、指導者がやがて王となり、「クニ」が誕生しました。有名な邪馬台国(やまたいこく)は、弥生時代の終わりごろに誕生した「クニ」のひとつです。</p>